

世界をリードする 「かごしまの黒の力」

～黒潮に乗つて文化維新～

国文祭テーマについて原口泉氏（企画委員長）が語る

鹿児島の魅力を伝える 『県民総主役』の祭典 国民文化祭への思い。



第30回国民文化祭鹿児島県実行委員会
企画委員会委員長

原口泉氏

昭和22年鹿児島市生まれ。東京大学大学院博士課程中退。鹿児島大学法文学部教授を経て、現在は志學館大学教授のほか鹿児島大学名誉教授・法文学部特任教授・農学部客員教授・放送大学大学院客員教授(千葉)を兼務。大河ドラマ「篤姫」や朝ドラ「あさが来た」の時代考証も担当。

連続が、鹿児島独自の文化を形成したのです。

国民文化祭の意義とは
全国各地で行われている様々な文化活動の発表・競演・交流の場として、毎年各都道府県の持ち回りで開催されている国民文化祭。

の文化の魅力を知つてもらう、その情報を発信する絶好の機会だと思います」と期待を寄せる。

記念すべき第三十回の今年は、鹿児島がその舞台だ。十月三十一日から十一月十五日まで、南北約六百キロにわたる広大な県土のあちこちで百を超えるイベントが実施される。離島も会場となる国民文化祭は初。実行委員会企画委員長を務める原口泉氏は、「鹿児島

『本物。鹿児島県』を伝える

鹿児島の文化の魅力とは何か。

下鉱物資源ももたらす。金はその代表格。白薩摩の金襷手や川辺仮壇の金箔、薩摩切子の金赤の色ガラスなどに用いられ、薩摩の伝統工芸品にとって重要な役割を担つてきた。伊佐市にある菱刈鉱山は今なお現役で、世界有数の高品位の金を産出し続けている。

また、薩南諸島は亜熱帯、薩摩・大隅地方は暖温帶、霧島地方は冷温帶と、一県に三つの気候帯が存在する特殊な環境においては、生物遺伝資源も豊富となる。野生物はもちろん、人間の生活

の民俗芸能や工芸技術を運んでくる。「黒潮に乗つてやつて来た文化がスパークし、交じり合い、また新たな価値観が生まれた。」^(一)が

文化は唯一無二の鹿児島という土

生植物はもちろん、人間の生活に

百キロにわたる広大な県土のあちこちで百を超えるイベントが実施される。離島も会場となる国民文化祭は初。実行委員会企画委員長を務める原口泉氏は、「鹿児島

の根柢にあるのは、特色ある風土とその恵みを様々なものづくりに生かしてきた古人の知恵だ。例えば、活発な火山活動は時として大災害を引き起こすが、豊かな地

下鉱物資源ももたらす。金はその代表格。白薩摩の金襷手や川辺仮壇の金箔、薩摩切子の金赤の色ガラスなどに用いられ、薩摩の伝統工芸品にとって重要な役割を担つてきた。伊佐市にある菱刈鉱山は今なお現役で、世界有数の高品位の金を産出し続けている。

また、薩南諸島は亜熱帯、薩摩・大隅地方は暖温帶、霧島地方は冷温帶と、一県に三つの気候帯が存在する特殊な環境においては、生物遺伝資源も豊富となる。野生物はもちろん、人間の生活に

地に根差している。だからこそ、そこには真似やまかしのきかない「本物」しか存在しない。今回の国民文化祭のテーマである「本物。鹿児島県」文化維新は黒潮に乗つて「」や、鹿児島のシンボルをシンプルに配したオリジナリティのあるロゴマークには、「本物」を自負し、それを国内外へ発信していく強い意気込みが表現されている。

「桜島・ロケット・黒潮の組み合わせなんて、他にはないでしよう。『本物』が見えづらくなっている時代だからこそ、重要な意味を持つテーマとロゴマークになつたと思います」。

県民主体で未来へ繋ぐ

期間中のイベントは、食や伝統工芸品、郷土芸能にまつわる祭典や、世界遺産登録が決定した『明治日本の産業革命遺産』に関わる歴史系のシンポジウムなど、鹿児島文化の多様性を存分に堪能できるバラエティに富んだものとなつている。原口氏も、時間の許す限りより多くの会場へ赴くつもりだ。その裏には、県民一人一人が出演者であり、主役にならなければならぬい

との思いがある。「鹿児島の魅力をまずは私たち自身が知つて、自らの言葉で、唄で、踊りで表現することが大切。県民が本気になつて初めて伝わるものがあるのでないでしょうか」。企画委員会では、盛り上がりを一過性のものにしないためのイベントの在り方についても議論を重ねた。高校生から高齢者までが参加できるものにすることで、先輩が後輩へ伝え、後輩が先輩の背中を見て新たなものを生み出せるような仕掛けを作り、文化活動の世代間授受と継続、更なる発展を狙う。

一八六七年、第二回パリ万国博覧会に薩摩藩は幕府とは別に単独で参加した。薩摩のパリオニに飾られたヤマユリの花や、鎧兜に身を包んだ武士たちによる弓道や剣道のパフォーマンスは、パリっ子たちの心を掴み、出品された白薩摩の繊細で華麗な美しさがヨーロッパにジャポンズムを巻き起こすきっかけを作った。

原口氏は、当時の薩摩の企画力・演出力の高さには学ぶべきところが多いと話す。受け継ぎたいのは、そこに通つておもてなしの心だ。鹿児島の地に様々な人の伝えたい思いがあり溢れる十六日間、国内最大の文化の祭典がいよいよ始まる。

消費者の声をモノづくりに活かそう！

平成27年7月28日（火）鹿児島サンロイヤルホテルで「第30回国民文化祭」

がごしま2015」に向けて、新たに開発・改良された85社197点の商品を一堂に

展示紹介する大発表・商談会を開催しました。

同会場では、中国を含む県内外の流通関係者54社1000名との積極的な商談が行われるとともに100名の特産品モニターから商品評価を得ました。

中には厳しい要望も出されましたので、今後の商品開発の参考にしていただければ幸いです。

〈特産品モニターの意見〉

・県外へのお土産として喜ばれそうな商品が多かったです。

・パッケージデザインもセンスが良く、作り手の情熱が伝わってきた。

・ミニサイズなどたくさんバリエーションがあればうれしい。

・商品の味やアイディアは良いが、商品の良さがパッケージに活かされていない。

・記念商品としてのインパクトが弱い。期間限定や季節限定のプレミアムな商品があつてもいいのでは。



・お土産品としてだけではなく、県内の方にも購入していただけるような価格設定が必要。